
深雪(みゆき)

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みゆき
深雪

【Nコード】

N2711Q

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

スケッチ。すばる文学賞ネタ

（前書き）

前書き戦争、終了。東京講和条約が結ばれる。

深雪が家を出たとき、雪が降っていた。深雪はこれは積もりそうだなと思う。

歩いていたら、前から同級生の新村がやってきた。

新村と深雪は今敵対してるのでお互い無視してすれ違った。

深雪は舌打ちした。少しだけ新村が謝ってくれると期待していたのだ。無論、新村も同じことを考えていた。

深雪が駅前広場に到着したとき、ちょうどそこにあるハンバーガーショップが燃えていた。店にトラックが突っ込んでおり、野次馬が群がっていた。消防車はまだ来ていない。

雪は相変わらず降っているが、炎の勢いが強すぎてまるで役に立たない。

深雪は少し不謹慎にもあの火で芋焼いたら美味しいだろうなと思った。それほど今日は冷える。

深雪はプラットホームで電車を待っていた。変なおじさんがいた。そわそわしてる。何か探しているのだろうか不審な動きだ。

深雪はさつき売店で買った肉まんをはもはも食う。

深雪はすばる文学賞に送る予定の長編「ひつぷほつぷ武将」のアイデアを手帳に書いていく。締め切りまであと二ヶ月。がんばらないと。

エンタメする文学。文学するエンタメ。それを深雪は目指していた。雪がしんと降る。

さっきのおじさんが今度はブツブツ独り言を言い始めた。危ないおじさんだ。

電車が到着する。深雪は乗り込む。満員だったので座れない。

深雪は窓の外の風景を眺める。この街ともあと一年の付き合いかあ。深雪はすばる文学賞に当選した場合、プロ作家になるために引越をする予定なのだ。

深雪は、頭の中で、野生時代フロンティア文学賞もよかったなと思う。なにしろ、賞金がすばる文学賞の三倍だ。

ただエンタメ過ぎるので性格に合わない。

新潮新人賞もよかったなと。文学がやはり深雪に合っている。

ただ尊敬する町田康先生が審査員を降りたので断念。

やはり、すばる文学賞だ。エンタメ寄りの文学がやはりいい。文学が性に合ってるとはいえ、あまり重すぎるのは書けない。多少楽しいのが書きたい。

混沌複雑化した現代を生きる若者の苦悩葛藤を描いた小説が求められているのも、今の深雪の心理状況にマッチしている。

アマチュア作家からプロ作家へ。

その不安や怒り、葛藤を創作にぶつけたいと思う。

雪はますます激しくなっていた。

（後書き）

後書きちゃんが、電撃入籍。お相手は、歌舞伎俳優の烏賊蔵。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2711q/>

深雪(みゆき)

2011年1月26日03時50分発行